

指定校番号	28001	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立戸坂小学校	校長	三吉 学	生徒指導主事	細田 和夫
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『にじいろ集会～異学年集会～』

取組のねらい『自発的・自治的な活動をめざして』

異年齢集団による児童会の自発的・自治的な活動を多く設定することによって、高学年のリーダーシップを育て、学校集団としての活力を高め、楽しく豊かな学校生活をつくるようにする。

取組の具体的内容『ペア学年でスタート』

昨年末、児童会でみんなが親しみやすく、楽しく活動できそうな呼称を考える。その中から「にじいろ集会」を選び、スタートする。

- ① ペア学年を設定する。1・6年（4クラス）、2・4年（4クラス）、3・5年（3クラス）とする。
- ② 名簿を作成する。同じクラス数のときは、原則同じクラスとペアになる。
1グループ6名程度（1年生3名＋6年生3名＝グループで6名）1クラス3名程度の中に、男子も女子も入れる。グループ名は、「クラスーアルファベット」とする。（1組のAグループ＝1-A）5月の初めまでに名簿を作成する。
- ③ 活動場所は体育館とする。
- ④ 集会日は「にじいろ集会週間」を設け、その週間の水・木・金曜日とする。
水曜日1・6年集会 木曜日2・4年集会 金曜日3・5年集会
時間は8：25～8：35の朝会時間帯とする。
- ⑤ 内容は年間5回 5月：自己紹介 6月：平和集会に向けて折り鶴を折る。
9月ゲーム：11月長縄 1・2月：ゲーム
※9月からの集会は、内容を児童同士が話し合い、決定できるようにしていく。
- ⑥ 展開は児童会が委員会の時間に次回の異学年集会の原案を作る。代表委員会で内容を伝える。
4・5・6年生が中心となって集会を進行する。（司会は、学年で話し合っって学年の実態に応じて決定する。



取組の課題・創意工夫 『リーダーとメンバー ～相互のつながり～発展』

- 上学年の児童はリーダーとしての力をつけ、「学校の中で友達を増やすことができた」という評価の一方で、他のメンバーの力を伸ばすまでには至っていないという課題があげられた。
- リーダーとメンバーの相互のつながりを今後は伸ばしていきたい。
- 「にじいろ集会」で育んだ相互のつながりを何か他の活動場面でも生かせるようにしていきたい。(例えば、平和集会、きらきら挨拶ウイーク、もくもくそうじ等)

取組の成果（効果）『自己存在感・自己有用感あり』

- 『異学年と一緒に活動することで、上学年の児童はリーダーとしての力をつけ、学校の中で友達を増やすことができた。』という教師の見取りでは、80%が達成できた。20%が少しは達成できた。
- ペア学年（2学年）で取り組んだことで、活動場所と活動時間がコンパクトになり無理なくできた。スモールステップで進めることができたのが良かった。
- ペア学年で取り組んだことで、上学年の児童が自身の立場や責任感をより強く感じるようになった。
- 下学年の児童から「必要とされている」と感じる事が、上学年の児童にとって、とても嬉しいものであり、自己存在感・自己有用感を感じる事ができた。
- 活動を重ねるごとに児童が自発的に行動する姿が多く見られるようになった。



今後の展開『縦割り集団の拡大』

異学年交流は、児童の自己存在感・自己有用感を育成していく上で大変効果的であると言える。しかし、本校の規模（児童数：720名 1学年3組～4組）の場合、いきなり1～6学年の縦割り集団を作り、活動しようとする、グループ作成、活動場所で無理があった。ペア学年からスタートしたのは、良い方法であるが、今後どのように展開・発展させるかが大きな課題である。

他校へのアドバイス『継続が重要』

本年度からスタートした異学年交流を来年度以降も継続していきたい。現在の1年生が最高学年の6年生になる6年後まで継続することが望ましい。なぜならば、児童一人一人が、世話をしてもらった立場の1年生から世話をするリーダーの立場になるまでを経験することが大切である。